



国民の森林・国有林

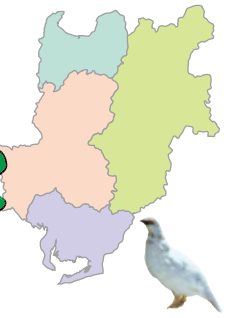
林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



表彰式後、発表者と審査委員の方々

地域における森林・林業の推進と普及を目指し

「中部森林技術交流発表会」を開催

主な項目	○ 中部森林技術交流発表会を開催	P2
	○ 各地からのたより	P6
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P9
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P10

平成二十八年
中部森林技術交流発表会を開催

「技術普及課」一月三十一日から二月一日の二日間にわたり、中部森林管理局大會議室において、「平成二十八年中部森林技術交流発表会」を開催しました。

この発表会は、管内の国有林及び民有林の行政・教育・研究機関、団体等が、森林・林業に関する試験研究や先導的取組、林業体験活動等の取組について発表を行い、技術の交流・知識の共有、情報交換を通じて一層連携し、これらの成果の普及と森林・林業のさらなる推進に資することを目的として毎年開催し今回で六十四回となります。

今年度は、国有林関係から十五課題、民有林・学校関係等から十課題の合わせて二十五課題と多くの課題が発表されました。

開会に当たり、新島局長から、「一般会計化から五年目となる今、国有林は、公益重視の管理経営の一層の推進、林業



開会の挨拶をする新島局長

の成長産業化、地域振興という三つの柱に基づき取組んでいるが、その中で一番大切なものがまさに「技術」である。省庁は多数あるが、大きなフィールドを持ち様々な取組を自ら実行することができるのは林野庁だけであり、その根拠である国有林というフィールドは職員だけのものではなく、地域の皆さんに使っていただくフィールドである。この貴重なフィールドを使って、地域の森林・林業に対していったいどういことができるのか、それが我々に課せられた一番の使命だと考えている。

また、先端的な技術はリスクを伴うものであるが、このリスクをしつかり我々国有林が背負い、新技術の良い点悪い点を十分に検証し、完成した技術を適切に引き継いでいくことが、国有林の使命である。

地域の皆さんと手をとりたいながら、国有林というフィールドでやっていくために、日頃の研究課題の結果を発表する場が、まさにこの技術交流発表会であり、この場が民国連携、そして産官学の連携のひとつの契機となることを祈念します。」との挨拶がありました。

続いて行われた発表では、「森林技術」「森林保全」「森林ふれあい」の各部門において、林業の低コスト化や多様な森林づくりに向けた取組、安全に関する研究発表、地域と連携した民国連携に関する取組、先端技術を利用した開発課

の成長産業化、地域振興という三つの柱に基づき取組んでいるが、その中で一番大切なものがまさに「技術」である。省庁は多数あるが、大きなフィールドを持ち様々な取組を自ら実行することができるのは林野庁だけであり、その根拠である国有林というフィールドは職員だけのものではなく、地域の皆さんに使っていただくフィールドである。この貴重なフィールドを使って、地域の森林・林業に対していったいどういことができるのか、それが我々に課せられた一番の使命だと考えている。

また、先端的な技術はリスクを伴うものであるが、このリスクをしつかり我々国有林が背負い、新技術の良い点悪い点を十分に検証し、完成した技術を適切に引き継いでいくことが、国有林の使命である。

地域の皆さんと手をとりたいながら、国有林というフィールドでやっていくために、日頃の研究課題の結果を発表する場が、まさにこの技術交流発表会であり、この場が民国連携、そして産官学の連携のひとつの契機となることを祈念します。」との挨拶がありました。

続いて行われた発表では、「森林技術」「森林保全」「森林ふれあい」の各部門において、林業の低コスト化や多様な森林づくりに向けた取組、安全に関する研究発表、地域と連携した民国連携に関する取組、先端技術を利用した開発課



審査委員の方々と会場の様子

一日目の発表会終了後には、信州大学農学部岡野哲郎教授から、二日目は名古屋大学大学院生命農学研究所田中隆文准教授から、各発表課題に共通するキーワードに基づく分析や、「多様性」を軸にした視点から、課題ごとに丁寧な講評をいただきました。

二日間の発表会には、発表者・聴講者等を含め延べ約三五〇名の参加があり、たいへん盛大な開催となりました。

中部森林管理局では、引き続き、森林・林業技術の発展と普及に向け、各署等での技術開発、地域との連携など、民有林関係者との共働・協調を深め、情報発信に積極的に取り組んでいきます。



審査結果を発表する
佐藤森林整備部長



講評を行う名古屋大学
大学院 田中准教授



講評を行う信州大学
岡野教授



表彰式の様子

受賞課題と受賞者は次のとおりです。
(発表順で掲載)

○局長優秀賞

□国有林の部

・大転石を利用した治山ダムの取組

富山森林管理署 大内隆成



富山署 大内さん

・南信署におけるニホンジカ対策の取組
について

南信森林管理署 相馬夏美



南信署 相馬さん、竹内さん、南坂さん

南坂節子
竹内智絵

・木曽谷支援の取組について

木曽森林ふれあい推進センター
大石政弘



木曽森林ふれあい推進センター
大石さん

○局長努力賞

・更新コストの削減による無地拵地の経過について

北信森林管理署 下牧 幹

玉木陽祐

・スマート精密林業におけるドローン
レーザーによる単木把握

中信森林管理署 岩塚伸人

信州大学農学部 市川 葉

・航空レーザー計測データを活用した収穫
調査への適用性の検討について

東信森林管理署 坂口 博紀

朝日航洋(株) 世古口竜一

・伐採跡地におけるヒノキ天然更新過程

木曽森林管理署 久保 喬之

池端久美子

・伊那谷総合治山事業所における安全対
策(安全協議会との相互連携)

伊那谷総合治山事業所 立邊真悟

(株)内山組 内山成治

・御嶽山噴火災害からの経過と対応

木曽森林管理署 小瀬木文武

梅田 英孝

・治山事業による濁水発生低減効果につ
いて(板取川地区民有林直轄治山事業
地(海ノ溝谷)においての中間報告)

岐阜森林管理署 乾 裕太

(株)中部森林技術コンサルタンツ

兼松和重

・造林コスト低減に向けた取組について

愛知森林管理事務所 加藤歩実

小竹尚久

・ヒノキ・ケヤキ混交林におけるケヤ
キの生長

飛騨森林管理署 西村 千夏

久保島慶彦

・多様な森林づくり施策について
ーヒノキ人工林除伐省略試験の事例ー
森林技術・支援センター 三村晴彦

堤 隆博

・ケーススタディ地区を活動のテーマ
パークに(民国が連携した活動を集中
的に実施)

岐阜森林管理署 大島愛彦

野中恵介

・南木曽支署におけるニホンジカ対策の
取組について

南木曽支署 木戸一夫

古田義一

ー地域と連携した捕獲の実施ー

□民有林の部

○森林・林業振興賞(市町村、関係機
関、各種団体等)

・溶出日数の長い肥料を用いて育成した
ヒノキ・コンテナ苗の初期成長

岐阜県森林研究所 渡邊仁志

茂木靖和

森林技術・支援センター 三村晴彦

富山森林管理署 千村知博

岐阜県森林研究所 渡邊さん



岐阜県森林研究所 渡邊さん



国土防災技術株式会社 藤原さん

愛知森林管理事務所 村井千秋

近藤 稔

国土防災技術(株) 藤原美波
名古屋大学大学院生命農学研究科

・国有林フィールドにおけるUAVの活用について



岐阜県森林研究所 茂木さん

森林技術・支援センター 三村晴彦

渡邊仁志

岐阜県森林研究所 茂木靖和

・育苗履歴の異なるヒノキ・コナラの植栽後の成長比較



岐阜県立飛騨高山高等学校 田口さんと横川さん

横川慶和
田口立実

・豊かな森林を目指して
「スイスフォレスト」に学ぶ、森林づくり



長野県佐久地方事務所 関さん

関憲一郎

・地域にある自走式木材破砕機を活用した森林整備について



岐阜県立森林文化アカデミー 森田さん

森田綾子

・教えて学ぶ森林活用
「下高井農林高校の取り組み」
長野県下高井農林高等学校

田中一真
和田敦成
宮崎航也



岐阜県立森林文化アカデミー 國枝さん

國枝裕介

・クラウドデータベースによる林業従事者向け労務管理システム



長野県千代さんと本間さん

千代宗平

・全国の林業大学校学生の意識調査

長野県林業大学校 本間文瑠

・小中高校生の森林・林業に関する意識調査

長野県林業大学校 森上慶士



長野県下高井農林高等学校 田中さん、和田さん、宮崎さん

(5) 平成 29 年 2 月



長野県林業大学校 森上さん

山地災害対応能力強化 プロジェクトがスタート

「治山課・森林整備課」我が国は、台風、豪雨、地震、津波等の自然災害が発生しやすく、平成二十三年三月の東日本大震災、平成二十六年八月の広島市土石流災害、平成二十七年九月の関東・東北豪雨、昨年四月の熊本地震等、大規模な災害が毎年のように発生し、多くの人命や財産が失われています。

とりわけ中部森林管理局管内は、三千以上の山岳地帯を有し地形は急峻で、中央構造線をはじめ多数の断層が分布する大変もろい地質となっています。また、活火山も存在していることから、山地災害の発生リスクがとてつもない地域です。近年、管内では平成二十六年七月の南木曾町土石流災害、同年九月の御嶽山噴火災害等、大規模な山地災害が発生しています。さらに、地球温暖化により極端な降水がより強く、頻繁となる可能性が非常に高いことが指摘されるなど、山地災害の発生リスクは今後さらに高まってくるということが予想されます。

従来から中部森林管理局は、大規模な

山地災害が発生した際は、国有林のみならず民有林の災害についても、災害対策本部へのリエゾン派遣、県や市町村等との合同によるヘリコプターでの広域的な調査など行ってきたりしております。さらに増大する山地災害の発生リスクに備え、被害状況の把握や被災地支援など迅速かつ的確に対応できるよう、初動体制の一層の充実が強く求められています。また、昨年、北海道や東北地方で発生した台風災害では、被災自治体と地元森林管理署が協力して孤立集落の緊急避難路として林道を活用するなど、災害時における林道の役割があらためて注目されています。

こうしたことを踏まえ、中部森林管理局は、国有林の有無にかかわらず大規模災害発生時の初動段階において、被災自治体に当局管内の治山や林道を担当する森林土木技術者を派遣する体制を整備し、技術的な支援・助言を迅速かつ的確に行う能力を強化する「山地災害対応能



「山地災害対応」に関する研修会であいさつされる新島局長



林野庁業務課企画官による特別公演

力強化プロジェクト」を昨年十二月にスタートさせました。

このプロジェクトのキックオフとして治山課と森林整備課は、森林管理署等の森林土木技術者を集め、「山地災害対応に関する研修会」を開催しました。研修会では、新島局長から中部森林管理局の地域への貢献といった面で災害対応は非常に重要とする訓示があり、林野庁業務課の飯島企画官による近年の山地災害発生状況や林野庁における災害対応等に関する講演、江坂計画保全部長による災害対応の経験から得た教訓等に関する講演のほか、参加者をグループにわけて災害対応業務について議論・発表を行うワークショップを行いました。二日間にわたる研修会により、参加者の山地災害をめぐる状況の理解促進、危機管理意識の醸



ワークショップで議論する参加者



ワークショップの結果をグループごとに発表

成等が図られました。引き続き、今年度中に大災害発生時の災害対応を迅速に行い、被災地の復旧、復興に貢献できるよう態勢を整えていくこととしています。

地元高校生が 中部森林管理局を訪問

「技術普及課」平成二十八年十一月二十八日、長野県長野高等学校（長野高校）の生徒が中部森林管理局（中部局）に来庁し、森林に関する知識や中部局の業務について学習しました。

長野高校は、グローバルな社会課題を発見・解決することができる人材の育成

等に関する教育過程の研究を実施している高等学校として、文部科学省によって、スーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定されています。

当該SGH指定校として長野高校では、「グローバルな視野を持つためには地元長野を知ることが重要である」との理念に基づいて、生徒が自ら地域の抱える問題を発見し、グループで研究に取り組んでいます。

その生徒のなかで、森林や地球環境について興味を持っている一学年の生徒六名が中部局を訪問し、森林の働き、森林の種類、森林に関する全般的な知識や、中部局の業務について職員から説明を受けました。

およそ一時間程度の限られた時間でしたが、来庁した生徒達からは「森林に関する話を沢山聞くことができ勉強になった」、「中部局がどのような仕事をしている機関なのか理解することができた」といった声を聞くことができました。

また、訪問先へアポイントメントをとる事や、依頼書やお礼状を作成することも社会勉強の一環ということで、生徒らによって丁寧に作成された各書類をいただきました。

中部局では、引き続き、広く森林・林業の啓発・普及活動に取り組んでいくこととしています。

お礼状

拝啓 晩秋の候、中部森林管理局森林整備部技術普及課の皆様には益々お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、この度は、お忙しいところを私たちのフィールドワークにご協力いただき、ありがとうございました。

私たちがSGHという活動で環境問題について学習している中、お忙しいにもかかわらず皆様に貴重なお話や資料を頂き大変ありがたかったです。丁寧にご説明していただいたおかげで私たちもとても理解しやすく学習も深まりました。

特に森林の機能や木々の管理のお話しは、私たちが問題の一つとしている地球温暖化を解決する打開策の糸口の参考となりました。

このフィールドワークで得た皆様のお話や資料を参考に私たちの学習をさらに深め二月の研究発表表につなげていきたいと思えます。わからない点がでてきたら、どうかまた教えてください。よろしくお願ひいたします。

この度は、誠にありがとうございました。 敬具

平成二十八年十一月二十九日

長野県長野高等学校

一学年一組 一二〇四班代表

林野庁 中部森林管理局森林整備部

技術普及課 様

各地からのたより

市街地の国有林で清掃活動

「富山署」十二月七日、富山森林管理署は、名古屋林業土木協会富山支部と連携して、富山市西大沢の市街地にある防風保安林となっている大沢野国有林で清掃活動を行いました。

毎年実施している「国有林ゴミゼロ運動」の一環で計画したもので、八月に富山県等と協働で実施した山岳環境保全活動に続き二回目、国有林隣接地のパークゴルフ場駐車場に富山市大沢野行政サービスセンターの協力を得て八平方メートルのゴミ収集コンテナを置かせていただき、梅木富山署長ほか十七名の職員と名古屋林業土木協会富山支部の十二名、総勢二十九名が参加し、不法投棄ゴミ等の収集・撤去作業を行いました。当日は、前日の霰混じりの小雨は上が



ゴミの収集・撤去作業の様子



コンテナ満杯の収集ゴミと参加者

りました。肌寒い風が吹く気候のなか、四班に分かれ約一キロの区間のゴミを収集しました。一輪車や軽トラックを使いコンテナまで運搬しましたが、林内からは人力で収集するしか方法が無く苦勞しましたが、参加者の協力により予定した時間内に終了することができ、用意したコンテナもいっぱいとなりました。今後、引き続き関係者と連携して国有林の保全活動等に取り組んで行くこととしていきます。

戸隠中学校の校外活動について

「北信署」十一月十一日に戸隠中学校において一年間の校外学習活動の発表会「戸隠TIME実践発表会」が行われ、その中で二年生は昭和四十八年から継続



巣箱かけについて説明する二年生

して行っている戸隠森林植物園での小鳥の巣箱掛けを、三年生は間伐などの林業体験について発表を行いました。

戸隠中学校では戸隠森林植物園を小鳥の楽園にすることを目指して取り組んでおり、一年生の終わり頃に事前授業と巣箱づくりを行い、二年生の早春に北信森林管理署職員の指導を受け、巣箱の高さや穴の方向等に注意しながら立木に設置した。例年は深く積もった雪上で難しく巣箱を設置できたのが、今年は雪が少なく、背丈もある笹をかき分けながら目的地まで進み、はしごを掛けて巣箱を設置したことのほか、活動を通じて、戸隠の自然を勉強できたこと、小鳥を守ることで自然を守れること、伝統を守れたことなどの発表がありました。また、発表の中で生徒の親御さん達の中にも中学生だった頃、同じように巣箱を設置したという体験談も聞かれ、伝統は受け継がれていくことを実感しました。

また、三年生は、七月二十一日に戸隠国有林内の学有林においてスギの間伐を体験したこと、その際、戸隠森林事務所



体験林業について発表する三年生

森林官による「間伐前の出前授業」で事前に間伐の目的や方法についても学習したこと、自分たちで汗をかきながら実施したノコギリによる伐採作業や北信署発注の作業現場で高性能機械による間伐作業も見学したことなどの発表がありました。



森林官による出前授業風景



手鋸による間伐体験中の三年生

戸隠森林事務所では、引き続き地域の中学生に森林の役割、重要性等について、出前森林教室等を通じて積極的に取り組むこととしています。

新林業モデル構築へ

フィールド提供による連携

「中信署」信州大学山岳研究所の加藤正人教授が、研究代表者として提案した「レーザーセンシング情報を使用した持続的なスマート精密林業技術の開発」が農林水産省などの地域戦略プロジェクトに採択され、信州大学、アジア航測、北信州森林組合、長野県林務部、中信森林管理署、長野県森林組合連合会の六機関が航空レーザー等の測量技術を生かし、新林業モデル構築に取り組むこととなりました。

平成二十八年十二月八日、六機関コンソーシアム(共同事業体)を設立し、覚書の調印式が行われました。

計画では、今後三年間かけて航空機や小型無人機(ドローン)を飛ばして森林資源情報を把握し、収穫調査の軽減、森林整備計画、木材生産性等を向上させる精密林業技術の確立を目指すこととしています。

午後からは、信州大学旭会館会議室において革新的技術開発・緊急展開事業(地域戦略プロ)キックオフシンポジウムが開催され、長野県内の林業関係者を始め、長野庁関係者など約一五十名が参加し、現在の森林・林業におけるレーザーセンシングの現状等について講演及び意見交換を行いました。

講演では、中野中信森林管理署長から「国有林における精密林業への期待」と題して我が国の木材供給の現状と国有林



調印式の様子(向かって右側が中野中信署長)

の役割、森林資源調査の現状、北海道局の航空レーザーを活用した取組事例、レーザーセンシングへの今後の期待等について報告がありました。また、アジア航測株式会社小川社長からは「航空レーザー」解析による単木森林管理」、北信州森林組合堀澤業務課長からは「精密林業による作業省力化」、長野県林務部山崎信州の木活用課長からは「長野県民有林における精密林業への期待」、最後に信州大学客員教授 Liang 氏から欧州の森林レーザーセンシングの最先端についての報告を受け、参加者からは多くの意見、質問が出され、スマート精密林業の開発への期待が伺われるキックオフシンポジウムとなりました。



キックオフシンポジウムの様子

「総合的な学習の時間」を支援する取組

「飛騨署」高山市立荘川小学校の依頼で五年生（八名）を対象とした森林教室を十二月十三日に行いました。

これは、文部科学省が定める「総合的な学習の時間」を森林学習の時間として、毎年この時期に当署の職員が森林教室を行っています。

当日は、パワーポイントを利用して、「森林はどれくらいあるの」、「森林はどうして必要なの」、「森林を守るにはどうすればいいの」等森林のはたらきについて学習したのち、実際に「見て」、「触れて」、「体験する」ため、児童達はヒノキ・サワラ・ネズコの葉の違いを観察し、「森の中の表土」と「土だけの表土」を比べる模型を使って、水が浸透して行く時間や水の濁り具合などを手で触れて表土の感触を観察しました。



パワーポイントを使って森林学習



模型を使って水の浸透等を学習

また、丸太切り体験はヒノキ、キハダ、ミズメ、シラカバの丸太を児童達がノコギリで切って、当署職員の補助で電動ドリルを使って鉛筆立てを作成しました。

「ぼくは森林学習を通して、緑のダムと言うことを初めて知りました。森林の大切さが良く分かりました。木を切る作業ではすごく、たくさん木の名前を知りました。切った木は学校と家で鉛筆立てとして使っています。」（男子児童）「森林のことについて説明や、体験させてくれてありがとうございます。私がびっくりしたことは荘川の森林率が九四％だったことです。小さいイスはまだ作っていないので家で作って使ってみたいです。」（女子児童）

「私は森林が土砂崩れを防いでいることや、実験でたくさん水を貯えることが分かりました。丸太切り体験では、堅くて切るのがとても大変でした。でも切れたときはとてもうれしかったです。プレゼンや実験・丸太切りどれも楽しかったです。」

たです。いただいた鉛筆立てとキーホルダーを大事にします」（女子児童）など、体験した全児童が感想を寄せてくれました。



手鋸による間伐体験中の3年生

児童たちは、この森林教室で体験し学んだことを、「森林学習の新聞」として制作・取りまとめをするそうです。

行事・会議等の予定

◎ 第三回植生管理専門委員会兼第二回保護林復元部会

3月1日 中部森林管理局

◎ 森林・林業社会貢献活動に対する局長感謝状贈呈式

3月13日 中部森林管理局

◎ 治山・林道コンクール表彰式

3月13日 中部森林管理局

◎ 第七回木材利用優良工事事例コンテスト表彰式

3月21日 長野市



伊那谷総合治山事業所 飯田治山事業所

治山技術官 立邊真悟

長野県飯田市に所在する飯田治山事業所は、木曾山脈（中央アルプス）の奥念丈岳を源流とする松川流域において、民有林直轄治山事業を実施して四半世紀を迎えます。

管轄する地域は、松川入と呼ばれる飯田市の西部に位置する水源地帯です。

松川入地区は、風化が進んだ脆弱な花崗岩類地質（マサ土）であるとともに、気象的にも木曾山脈南部特有の集中豪雨が頻発しやすい条件下にあることから、山腹崩壊や河川荒廃が進み、流出する土砂により、下流にある県営松川ダムの有効貯水量の維持及び洪水調節機能の發揮が危ぶまれる状況となりました。



松川ダムと飯田市



ヘリによる航空実播の様子

同地区は戦後間もなく、長野県による治山事業が始められましたが、度重なる豪雨等により新生崩壊が多数発生したことから、長野県及び地域住民の強い要請を受け、平成五年から「松川入地区民有林直轄治山事業」として着手しました。

事業実施にあたり、奥地の崩壊地へは、治山運搬路を延伸しながら復旧を進めるとともに、資材搬入が困難な箇所ではヘリコプターを活用した航空実播工による緑化を行い、着実に崩壊地の復旧を進めてきました。

ここ数年は、年間十件程度の工事を発注しており、平成二十八年度は、工事件数八件を事業所員二名と伊那谷総合治山事業所職員の協力を得て実施しています。

当事業所では、主に山腹工を実行して

いますが、現地に至るまでの通路は急傾斜地を迂回しながら開設しているため距離も長く、監督業務で施工地へ向かう道のりは、さながら登山トレッキングの様相です。



山腹工施工地（割沢）

しかし、工事に携わる請負事業体の方々は、毎日往來のうえ作業をおこっているため、改めてその体力に感心するとともに、安全に配慮した通路作設をしていただいていることに対し、監督職員として感謝をしています。

治山工事を施工するうえで、最も重要なのが「安全」です。近年は、山腹崩壊地の奥地化が進んでおり、事務所から片道一時間、携帯電話も不通な現場もあるため、安全確保対策や緊急連絡体制の構築が今まで以上に大切となっています。



現場代理人研修の様子

伊那谷総合治山事業所の安全活動においては、発注者と受注者が、「災害の未然防止こそが最重要」との共通認識を持つなかで、飯田治山事業所開設直後から、受注者による自主的な安全組織として「飯田地区治山事業安全協議会」が結成されています。

安全パトロールのみならず、発注者と受注者の認識共有を図るための研修会を実施するなど、協議会、発注者及び労働基準監督署が個々の立場で協力して、労働災害対策と安全意識の高揚を図っています。

今後も、「飯田地区治山事業安全協議会」と連携して無事故無災害で治山工事を進めるとともに、松川入地区の早期復旧を目指して事業に取り組んでいきます。



岩村城の石垣

東濃署管内の南東部に岩村城跡（恵那市岩村町）と小里城跡（瑞浪市）があります。二つの城跡は国有林内、または周囲を国有林に囲まれた場所にあり、今回はその二つの城跡についてご紹介いたします。



岩村城跡は、恵那市岩村町市街地から見て南西にある「城山」に今も石垣が残っています。創築は一一八五年と言われており、明治期の廃城までの約七百年間、城として使われてきました。

また、日本三天山城の一つに数えられ、標高七一七メートルに位置する城は江戸時代の日本でも最も高いところにあることでも知られており、現在も石垣が残っています。本丸の「高石垣」や、雛壇状に六段も積み重なった「六段壁」などの石垣みを見ることが出来ます。

今年の大河ドラマでもおんな城主が描かれているところですが、岩村城にも「おつや」という女城主が善政を敷き、領民を守ったと伝えられていることから「女城主の里」とも言われており、地元清酒の銘柄にもなっています。

城下町へ足を運ぶと、旧家が建ち並び風情ある町並みを見ることが出来ます。

小里城跡は、瑞浪市小里の小里国有林内、標高四〇〇メートルに今もなお石積みが残っており、室町時代の創築と言われています。一六三三年の廃城までの約九十年間、小里氏の居城として使用されていました。現在も山頂には「本丸曲輪」山麓には「御殿場跡」などの石垣を見ることが出来ます。

本丸跡へのアクセスは県道から約五〇〇メートルの登り坂を約三十分の登山となります。

また、近くに国有林ではありません



小里城の天守台跡

が、中津川市苗木に国指定の史跡「苗木城跡」があります。

苗木城の特徴としては、木曾川から約一七〇メートルの岩山に天守が築かれており、石垣に自然の巨石がそのまま活用された珍しい城跡となっています。

城跡登り口には「苗木遠山史料館」がありここには、苗木城の城主「遠山氏」に関する史料や模型などが展示されています。

いずれの城跡も散策可能となっていますので、いにしへのロマンを求めて足を

運ばれてみてはいかがでしょうか。

【アクセス】

◎岩村城

車 中央自動車道「恵那IC」より約二十分

鉄道 明知鉄道岩村駅下車 徒歩約一時間

◎小里城（登り口まで）

車 中央自動車道「瑞浪IC」より約十五分

◎苗木城（苗木遠山資料館まで）

車 中央自動車道「中津川IC」より約十分

鉄道 JR中津川駅下車タクシー十分



苗木城跡